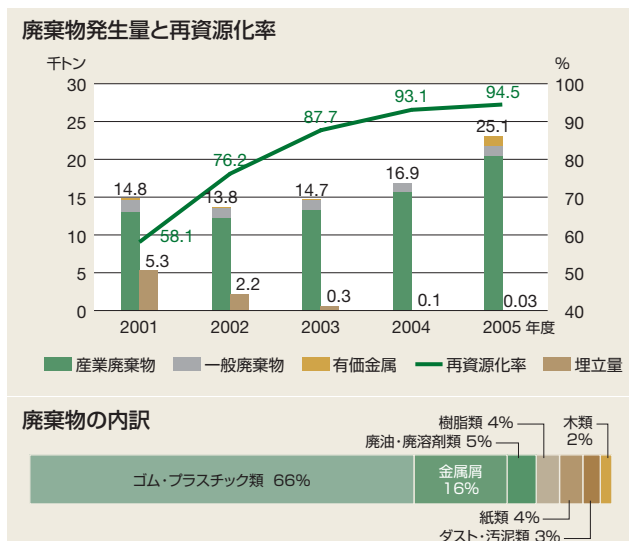


廃棄物の削減

2005年度末に国内全生産事業所で廃棄物の埋立処分量をゼロにする完全ゼロエミッションを達成しました。現在、2010年度末を目標に産業廃棄物の100%再資源化に向けた取り組みを展開しています。

廃棄物の管理

2005年度の廃棄物*1発生量は、前年度比48%増の25,100トンとなりました。大幅に増加した理由は、タイヤ、MB事業で共に生産が増加したこと、2004年10月に統合した横浜ハイデックスの平塚東、長野両工場の廃棄物データも算入したためです。これに対し、再資源化率は前年度比1.4%向上し、94.5%になりました。2006年度は再資源化率96%以上を目指します。



完全ゼロエミッションの達成

横浜ゴムは、2006年3月末までに、国内全8生産事業所で、廃棄物の埋立処分量をゼロにする完全ゼロエミッション**を計画より1年前倒しで達成しました。硫黄、硫黄の混じった汚泥など、最

後まで埋立処分していた処理困難物を、より細かな分別、再資源化可能な処理先の開拓などでなくしました。

産業廃棄物100%再資源化に向けて

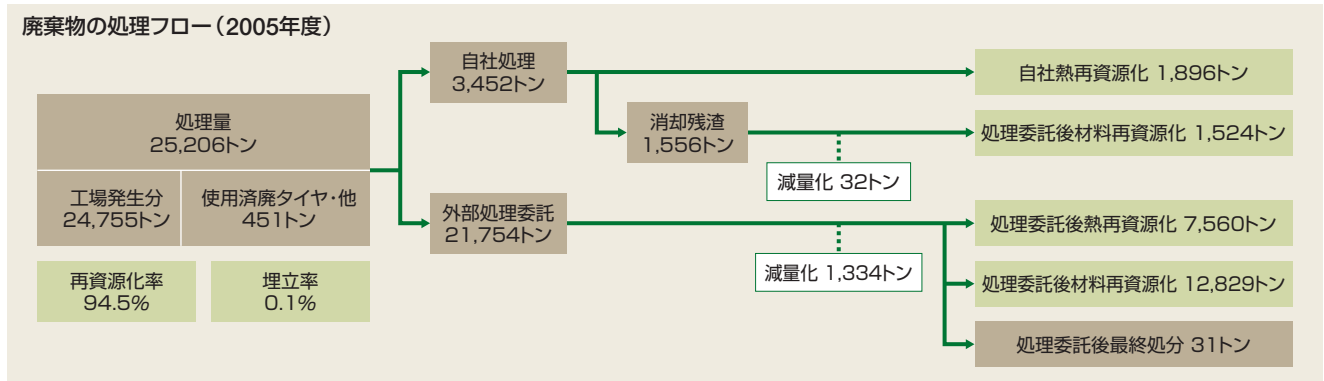
完全ゼロエミッションの継続と共に、「GD100」の目標である「産業廃棄物の100%再資源化*3」を2010年度末までに達成する計画です。タイヤ、MBの「生産環境部会」などを通じて処理情報の共有化を図り、事業所間の連携によって再資源化可能な処理先の開拓をします。

廃棄物処理委託先の管理

廃棄物処理委託先の廃棄物処理にかかわる不法投棄の未然防止などの遵法管理を目的に、2005年10月、社内要領を新たに作成、運用を開始しました。評価点方式によって監査の均質化を図ると共に、評価レベルに応じた監査頻度の変更、同一委託先監査情報の事業所間共有化を行っています。2005年度の監査実施率は51%でした。内部監査で改善を指摘し、2006年度は計画書を作成し、もれのない監査を実施します。

PCB廃棄物の処理状況

法令、社内規定に沿って適切に管理・保管しています。国の処理計画に基づき、2006年3月までに、早期登録・調整協力対象のすべてのPCB廃棄物189台(トランス類、コンデンサ類など)の申請を完了しました。



*1 廃棄物の定義：生産活動によって発生する不要物を廃棄物と定義。産業廃棄物、一般廃棄物、有価発生物のすべてを含む。
 *2 ゼロエミッションと完全ゼロエミッションの違い ゼロエミッション：埋立処分量が廃棄物発生量の1%未満であること。完全ゼロエミッション：廃棄物の埋立処分量をゼロにすること
 *3 100%再資源化の定義：最終処分量(=埋立処分量+有効利用を伴わない焼却処分量)をゼロにすること。